

ぼくが初めてアメリカへ行ったときはなし

外国語学部 英語英文学科 3年 親泊 一真

みなさんは「アメリカ」といえば何をイメージするだろうか？ ニューヨークの摩天楼とか、ハリウッド映画とか、トランプ大統領とか、おそらくそんな感じの画が浮かび上がるのがほとんどだろう。ぼく自身、こんなイメージを留学する前は思っていた。今回、語学研修として、ロサンゼルス近郊にあるカリフォルニア大学アーバイン校で一ヶ月間、留学することになった。ロサンゼルスといえば、ニューヨークとは真反対の場所にあるし、アメリカの中でも治安が結構悪い場所として有名だが、もしかしたら今まで思っていたイメージとは違い、アメリカの裏事情が生で見られるのではないかと内心、少しドキドキしていた。

そもそも、なぜアメリカへ行こうと思ったのか。それは、単純に英語を習っているからだ。中学や高校で習う英語は、大体、アメリカ式の英語だし、アメリカ式の発音で習う。ニュースでもビジネスでも、アメリカを話題にしたもの、アメリカ発の製品、サービスが軒を連ねることも多く、もしかしたら、隣国の中国よりもアメリカの存在感のほうが大きいのではないかという気がしてくる。英語英文学科に入ってしまったぼくとしても、英語を習っている以上、

「アメリカを知らずに世界は語れない」と勝手に思っていたので、一ヶ月八〇万円以上（実際にはもっと使うことになるが）という人生で一番、親に「絶対、働いたら返すからね！」と心の中で罪悪感とともに何度も叫んだ、アメリカへの語学留学を決心するに至った。

一時間を超すフライト。狭すぎる場所での食事。寝ようにも寝られない、直角のベッド。睡眠不足を発症してようやく着いたのは、アメリカのロサンゼルス空港だった。ながいながい入国審査を終えて出口へ向かうと、そこにいたのは、W I S E（ホームステイの仲介ボランティア）を行っている組織）が用意してくれていた、大きいアメリカサイズのパン。（あとでちやっかりお金を徴収してくださいました。）それに揺られるこ



神大生でビーチに行ったときの写真。

と二時間弱。みんなのホストファミリーが、ぼくたちのために集結していた公園で三〇分ほど待っていると、ホストファミリー歴およそ三〇年の、ベテラン感丸出しの夫婦が、まるでみんなより早く到着したかのようにやってきた。その後、彼らの自家用車に乗り込んで、ホームステイ先の家に到着。自分の部屋に入るや否や、睡眠不足で疲弊していたぼくは、ぐっすり眠りこんでしまった。

翌日、ホストファミリーが運転してくれる自家用車で大学へ。その道すがら、このバスを使って、この道へ行き、この標識を目印にして、と、英語がよくわからないぼくを前に、バチバチの英語で大学への行き方を説明してくれた夫婦に感謝する一方で、今日は朝からオリエンテーションを兼ねたブレイスメントテスト。なぜか英検一級の単語帳を日本から持ってきていたぼくは、まったくテストに出てこない範囲を、眠い目をこすりながら読んでいた。その結果、ぼくの英語レベルは、High-intermediate（上から二番目）に評価され、「お、わるくないんじゃない?」と思っていたら、近くで受験していた東大生の日本人たちが、余裕でAdvanced（一番上）をとるのを見るにつけ、あっけなく自信を失ってしまった。

そんなこんなで、年間学費一〇〇〇万円以上の貴族大学、カリフォルニア大学アーバイン校の語学センターで一ヶ月間英語を習うことになったが、やはりアメリカだけあって、すべての生活がキャンパスだけで完結するほどの広さ。スーパーや書店があるのはもちろん、映画館やちょっとしたバー、演劇場公園、レストラン街。さらには、近くの学生が住んでいる無数のアパート（デカイ駐車場付き）も大学の敷地内というから、正直どこが大学の外で、どこが大学の中なのか、わからない。そこにあるのは、キャンパスではなく、一つの街というレベル。「やっぱりお金があるところは違うな」と一人で納得してしまった。ホストファミリーも、その大学へよく買い物に行くというから、大学は大学生だけの場所ではなく、地域みんなの場所なんだということがよく分かった。

授業は朝九時から一三時までの四時間で、なぜか神大からの学生以外は、一二時で終了だった。その大学の人達に聞いてみると、語学ビザを取得すれば、もう一時間エクストラで授業を受けられるらしい。



奇抜なコーン。怖くて食べられなかった。

なるほど、だからビザ取得に時間がかかっていたのか、そして大学から単位をもらえない学生がほとんどらしく、おそらく神大生といくつかの大学だけが二単位のためにエクストラ授業を受けていたのだ。その授業は、ぼくにとって一番の鬼門だった。Pronunciation and Vocabulary and Business Writingの二択だったのだが、せっかくなので、あえて勉強したことのないビジネス系の英語を挑戦してみることにした。ところが、使われている英語の語彙が大変難しく、これでも現地からしたら基礎的な内容というからびっくり。アメリカの大学に入学したら、もっと難しい内容を勉強するのだから、ぼくはどれだけ英語に対して無知なのかということを思い知らされた。でも、いいこともあった。そこは多国籍な学生が集まる授業でもあって、中国・韓国はもちろんフランス、イタリア、ブラジルからやってきた留学生も多く集まっており、そのなかでもフランス人の留学生と色々な話ができた。日本とフランスのイ



お祭りの屋台。チキンやハンバーガーが多い。



アリスさんと二人でハリウッドに行ったときの写真。

メージ、食事、文化、考え方についての違いをあれこれ言い合って「相互理解」「国際交流」ってこういうことをいうのだなーとなんとなく実感した。さらには、留学と全く関係ないが、日本経済新聞に勤めている記者と日本人学生で、日本の政治・経済・科学技術について議論したり、（なぜか白熱。）途中で帰国する学生のために、学生同士でバーベキューを開いてお祝いをしたりと、鬼門でありながら、一番、留学を味わえた授業でもあった。

そして、そこで出会った明治大学の学生がすでに八ヶ月間、アメリカを留学していることもあって、まだまだアップなぼくが不安そうに見えたからという理由で、その方と一緒に、授業が終わったらほぼ毎日、大学の周りの散策、ロサンゼルスでの買い物、近くのビーチでサーフィンをしたりと、人生で一番充実した一ヶ月間を過ごしてしまった。それだけではなく、大学のツアーとして、近くの巨大な遊園地、サンタモニカビーチ（超おしゃれ）、ハリウッド、



カリフォルニア州は、トランプ大統領に反対する人が多い。



グリフィス天文台で撮った夜景。とてもきれい。



ユニバの入り口にあるサイン。
人が多くて大変だった。



エンジェルススのホーム球場。大谷選手を
生で見られた！



放課後によく遊んだ3人で撮った写真。
楽しかった。

ユニバーサルスタジオハリウッド（一万三〇〇〇円）、ディズニーランド（一万五〇〇〇円）など、一食二〇〇〇円もするランチを堪能したりもしたため、ついに金銭感覚が崩壊した。そういえば、移動にはクレカ払いでUberを使っていたりして、いつのまにか、お金が口座からだいぶ減っている現象も発生。ラスベガスに行った友達には、三〇万賭けて全部失った人もいて、えげつないカオス状態だった。こういう感じで、アメリカの文化を授業として朝だけ学んで、昼と夜は何をしているのかよくわからない一ヶ月だったが、それもいい経験だとぼくは思っている。おかげで、多くのお金を使うのなら遊ぶのではなく、一番自分がやってみたいことに使うことにしよう、と確信した。

そして実はもう一つ、アメリカのカリフォルニア州に留学した目的がある。それは、アリスさんに出会った。アリスさんとは、ぼくが大学一年生のころに、国際センター主催の日日プログラムで初めて出会った。一緒に食事に行ったり、みなとみらいや、東京の浅草へ行ったりして、日本の観光名所を案内

していくうちに、仲良くなった。二年ぶりの異国での再会もあって、少し緊張していたが、アリスさんは大きめの自家用車に乗ってホストファミリーの家にまで迎えに来てくれた。ロサンゼルス隠れ名所や、少し遠い、南部のサンディエゴ、メキシコとの国境まで案内してくれて、ぼくよりも何倍も親切にいろんなところへ連れて行ってくれた。最後には、別れを惜しむ手紙をもらい、もつと英語を勉強して、次に会うときは、ちゃんとした英語で話せるようになりたいなと思った。留学生活で、一番思い出に残る出来事となった。

こんな感じで、まだまだ書き足りないが、（ハンバーガー研究会を立ち上げ、どの店のハンバーガーが一番おいしいか研究したりもしていた。ちなみに、「インエヌアウト」という店が、格安でおいしい。）人生で一番豊かな生活を過ごしていたそんな中、アメリカの負の側面も少し見つけた。それはダウンタウンへ行ったとき、ホームレスらしき男性の姿をたくさん見かけたことだ。そしてトイレもないのか、路上で排泄をしたり、向かってくる歩行者を必要以

上に睨んで、よくわからない言葉を叫んでいる光景がそこにはあった。明治大学の学生によれば、観光として絶対に歩いてはいけない場所もあり、夜は本当に危険だという。そして、アメリカにももちろんコンビニや電車が日本同様に存在するのだが、少し様子が違う。聞けば、車を持ってない貧困層が使う場所として認識されているようで、家の近くのセブン・イレブンでは、「Give me money!」と書かれた段ボールを掲げたまま、入り口から動かない人もいた。カリフォルニア州は観光にはいいが、物価も土地も高すぎるらしく、ホストファミリーも二年後には家売って、もつと物価が安い州に移り住むという。どのような場所にも、特に光輝く観光地には、その輝く分だけ、影も色濃く存在することを再認識した瞬間でもあった。

一ヶ月間何を学んだのかと問われると、自分自身、いったい何を学んだんだっけと思うほど、海外留学はいろんなことを経験できる。強いて言うなら日本との違いをたくさん見つけて、視野を広くでき、英語をもっと勉強しようという気になれる、そしてもつと違った世界を見てみたいと思えた留学生活だった。でも、ちゃんとその質問に答えたいならある「テーマ」を設定して、留学してみるといいかもしれない。たとえば、テーマが「英語の上達」であれば、上達のためにどうするのか、という視点で生活できる。いずれにしても、いろんな経験ができることは間違いないから、恐れずにどんどん海外へ足を伸ばしてほしい。その経験を通して、自分の人生が豊かになることは確実だ。